

(様式3号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 小野 聡子

〔題名〕

共有意思決定における看護職の意思決定コーチングに関する研究

〔要旨〕

医療における共有意思決定 (Shared Decision Making: SDM) は、患者の自律尊重を基盤とする重要な概念である。しかし、日本の医療文化では、家族を含む意思決定や患者の消極的選択といった特徴から、その実践は十分ではない。

看護職は患者・家族に最も近い医療専門職として意思決定支援に重要な役割を担うが、その教育や評価は十分に体系化されていない。本研究は、看護職の SDM 実践として「意思決定コーチング」に着目し、その理論的概念化、教育的介入の構築と評価、実践適用の可能性を明らかにすることを目的とした。

第Ⅰ章では、共有意思決定における看護師の意思決定コーチングを概念分析し、意思決定コーチングを「不確実さや知識不足といった意思決定ニーズを抱えた患者に対して、自律的選択のために必要なスキルを獲得できるよう、患者の価値観や個別性を尊重したうえで、コミュニケーションに配慮し、専門職としての責務を全うしながら患者中心の協働的意思決定プロセスの促進に向けた支援」と定義した。第Ⅱ章では、オタワ意思決定支援フレームワークを基盤とした看護職向け意思決定コーチング研修を構築した。量的評価では、SDM に関する知識獲得に加え、SDM への参加、SDM 実践の自己評価への自信の有意な向上を確認した。第Ⅲ章では、研修参加者への質的調査から、SDM の臨床適用に『情報と感情を結び合わせ揺らぎを支える SDM 推進力』が必要であるという看護職の認識変容プロセスを明らかにした。第Ⅳ章では、意思決定支援の質を評価する Decision Support Analysis Tool-10 日本語版の言語的妥当性を検証し、意思決定コーチングを評価可能な実践として検討するための基盤を整備した。

本研究は、意思決定コーチングを理論・教育・評価の側面から体系的に検討し、看護職による意思決定支援を学習、評価可能な専門的実践として位置づけるための基盤を提示した。これらの成果は、わが国の共有意思決定支援の発展と、患者・家族中心の医療の実現に寄与するものと考えられる。

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1764 号 	氏 名	小野 聡子
論文審査担当者	主査教授 永田 千鶴 副査教授 田中 愛子 副査教授 伊東 美佐江		
学位論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。) 共有意思決定における看護職の意思決定コーチングに関する研究			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。) Implementing the Ottawa Decision Support Framework in Japan: Evaluation of a Decision Coaching Workshop for Nurses 掲載雑誌名 Patient Education and Counseling 第146巻 https://doi.org/10.1016/j.pec.2026.109497 . (2026 年 1 月 30 日 掲載)			
(論文審査の要旨) 本論文は、共有意思決定 (SDM) における看護職による「意思決定コーチング」をテーマとした 4 つの研究で構成されている。 【研究の概要】 研究1では、概念分析を通じて SDM における看護師の意思決定コーチングの定義を明確化した。研究2では、オタワ意思決定支援フレームワークに基づく意思決定コーチングに特化したワークショップを 12 回にわたり実践し、その実現可能性と教育効果を検証した。研究3では、ワークショップ参加者へのグループインタビューを実施し、看護職の認識の変化をグラウンデッド・セオリー・アプローチにより分析した。その結果、教育的介入が看護職に「情報と感情を結び合わせ、患者の揺らぎを支える SDM 推進力」を形成させることを明らかにした。研究4では、意思決定コーチングの評価を目的として、意思決定支援の実践者向け評価指標「Decision Support Analysis Tool (DSAT-10)」日本語版を作成した。言語的妥当性の検証を経て、日本の臨床・教育現場での適用可能性を検討した。今後は DSAT-10 日本語版の妥当性の検証が求められる。 【評価】 本研究は、SDM における看護師の意思決定コーチングの定義からワークショップの構築・運営、ワークショップによる教育的介入が与えた看護職の認識の変化の解明、意思決定コーチングの実践評価ツール DSAT-10 日本語版の作成に至るまで、構成は一貫している。また、本研究の成果は、すでに和文および英文の学術雑誌にそれぞれ 1 報ずつ掲載されており、国内外においてその学術的価値と質の高さが客観的に認められている。これら一連の過程を完遂したことは、研究者としての強い信念と資質の高さを示すものとして評価できる。 【結論】 本論文は、共有意思決定における看護職の意思決定コーチングの臨床実践適用可能性を実証した貴重な研究であり、意思決定支援の質の向上に多大な貢献が期待できる。従って、審査委員会は、本論文が博士 (保健学) を授与するにふさわしい内容であると判断し、合格とする。			

備考 審査の要旨は800字以内とすること。